

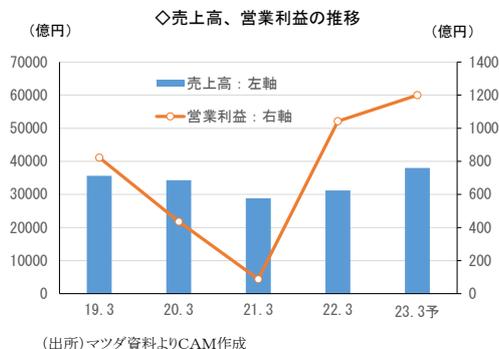
企業ニュース マツダ

(東証プライム : 7261) [https:// www.mazda.com/jp/](https://www.mazda.com/jp/)

作成者: 奥村義弘

収益力向上に取り組む

1920年、設立。1979年以降、フォードと資本提携関係にあったがこれを解消。2017年以降、トヨタと業務資本提携している。ブランド価値向上への投資、ブランド価値を低下させる支出の抑制、固定費や原価の低減加速による損益分岐点台数の低減により収益力向上に取り組んでいる。ブランド価値向上への投資では、成長をけん引する米国市場の販売力強化、ブランド力向上への取り組みが、着実に成果を表し始めている。加えて、トヨタとの合弁米国新工場でのCX-50の生産開始、ラージ商品群（既存のマツダ車よりも上位に位置するミッドサイズ以上のSUVなど）の導入準備を進めている。また、トヨタとの販売金融の協業は、米国、オーストラリア、日本において、正価販売を支えている。22.3期の売上高構成比は日本26%、北米39%、欧州17%、その他地域18%。



今期は大型の新商品を投入、さらなる成長を狙う

22.3期の連結業績は売上高が3兆1,203億円、前期比8%増、営業利益が1,042億円、同12倍。連結出荷台数は99.1万台、前年比0.1万台増。コロナ感染再拡大や半導体供給不足による減産、原材料価格の高騰などによる減益影響はあったが、円安効果やインセンティブの抑制、固定費の効率化など、着実な改善を積み重ね2月公表の営業利益予想820億円を上回る着地。

23.3期の会社計画は売上高が3兆8,000億円、前期比22%増、営業利益が1,200億円、同15%増。連結出荷台数は118万台、同19%増。想定為替レートは、1ドル=123円、1ユーロ=133円。減益要因としてコスト増728億円（原材料や半導体価格高騰の影響約900億円、物流コストの影響約300億円を諸コスト減でカバー）、固定費他増439億円（ラージ商品や米国工場への投資など）を見込む。これを増益要因である台数・構成964億円、為替450億円でカバーする。なお、CX-50は1月より米国で生産を開始し4月より販売を開始。ラージ商品群の第1弾CX-60は3月に欧州で、4月に日本で公開、段階的にグローバルで販売を開始しており良好な受注動向。

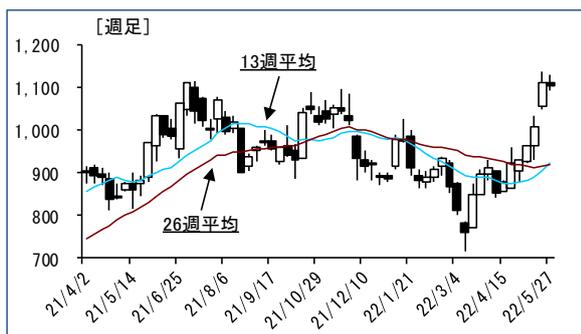
[株価動向・投資判断]

今期は増配を計画。構造改革の進展、業績伸長を反映したもので前向きに評価できよう。

<7261 マツダ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	2,882,066 (▲16)	8,820 (▲80)	28,251 (▲47)	▲31,651 (—)	▲50.3	0.00
22.3	3,120,349 (8)	104,227 (1,082)	123,525 (337)	81,557 (—)	129.5	20.00
23.3 予	3,800,000 (22)	120,000 (15)	105,000 (▲15)	80,000 (▲2)	127.0	35.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2022/5/27)	1,105 円
年初来高値 (高値日)	1,137 円 (22/5/20)
同 安値 (安値日)	715 円 (22/3/8)
予想 P E R (23.3 予)	8.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,065.7 円
P B R	0.53 倍
予想配当利回り	3.17 %
(1株当たり配当金年35.00円)	
R O E (22.3)	6.6 %
発行済み株式数	63,180 万株